

西宮市の将来人口 推計

令和6年1月

政策局 政策総括室 政策推進課

目 次

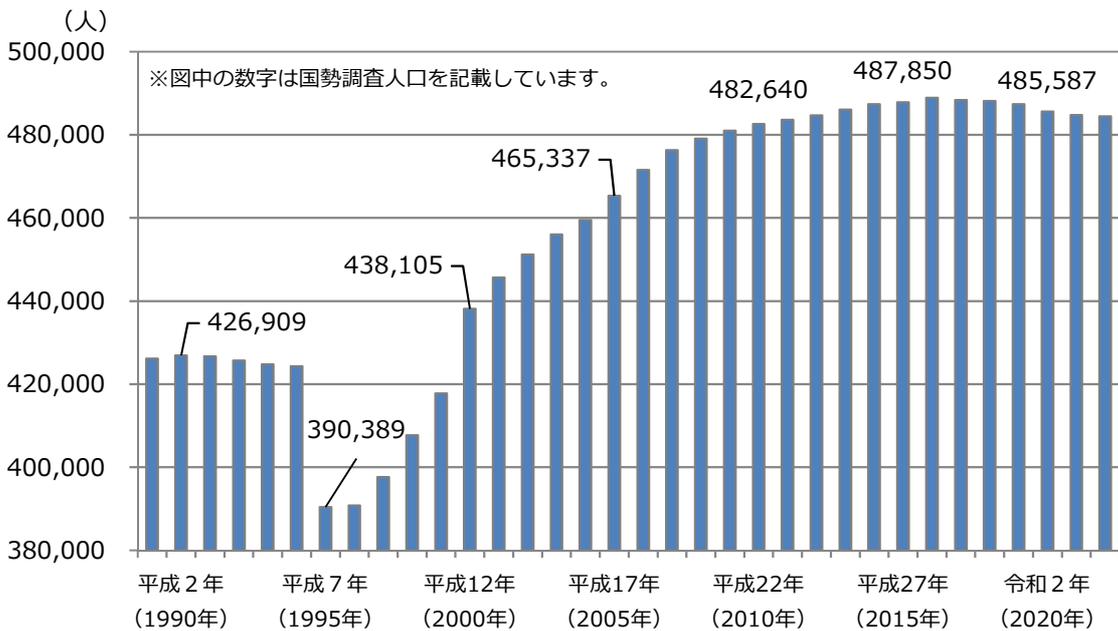
1. 近年の人口推移	1
2. 将来の人口推計	4
3. 推計結果の詳細	9
4. 分析・考察	17

1. 近年の人口推移

(1) 人口推移

平成元年以降の人口の推移を図1及び表1に示しています。

平成6年まで本市の人口は425,000人前後で推移していましたが、平成7年の阪神・淡路大震災により390,000人まで減少しました。その後、震災復興と共に人口は回復し、平成12年には震災前人口を上回り、平成20年頃まで急激に増加し、それ以降、平成28年まで微増傾向が続いていましたが、平成29年に減少に転じてから減少傾向で推移しています。



出典：西宮市統計書

図1 人口の推移

表1 人口の推移

単位：人

平成元年	平成2年	平成3年	平成4年	平成5年	平成6年	平成7年	平成8年	平成9年
426,129	426,909	426,711	425,711	424,719	424,328	390,389	390,792	397,618
平成10年	平成11年	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年
407,687	417,751	438,105	445,658	451,163	456,037	459,448	465,337	471,572
平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年
476,315	479,038	480,980	482,640	483,598	484,702	486,071	487,409	487,850
平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年		
488,874	488,399	488,127	487,401	485,587	484,737	484,488		

出典：西宮市統計書

※表中の数字は国勢調査人口及び各年10月1日現在の推計人口を記載しています。

(2) 人口動態の推移（社会動態推移）

平成元年以降の転入数・転出数による人口動態の推移を図2及び表2に示しています。

平成3年以降、平成6年まで年間2,000人程度の転出超過となっている状況が続いていましたが、阪神・淡路大震災が発生した平成7年は20,000人近く転出超過となりました。しかしながら、震災翌年の平成8年から転入超過に転じ、平成9年から平成19年まで年間2,000人以上の転入超過となりました。平成20年以降は、転入数・転出数が同程度に推移しており、令和2年以降は若干の転入超過となっています。

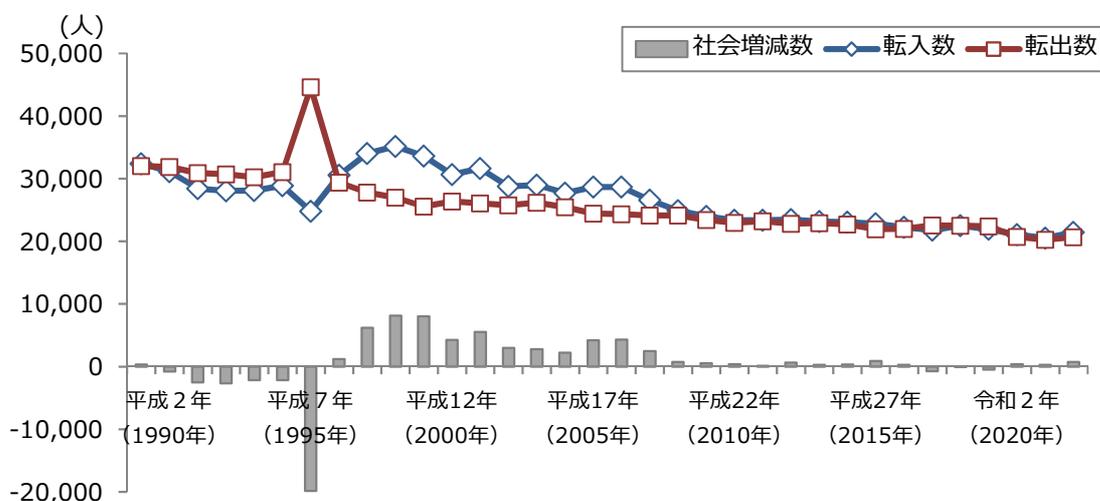


図2 人口動態の推移（社会動態）

表2 人口動態の推移（社会動態）

単位：人

	平成元年	平成2年	平成3年	平成4年	平成5年	平成6年	平成7年	平成8年	平成9年
転入数	32,420	31,105	28,424	28,061	28,120	28,878	24,792	30,588	34,010
転出数	32,067	31,887	30,936	30,733	30,258	31,051	44,657	29,388	27,832
社会増減数	353	-782	-2,512	-2,672	-2,138	-2,173	-19,865	1,200	6,178
	平成10年	平成11年	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年
転入数	35,173	33,623	30,678	31,614	28,782	28,963	27,725	28,683	28,666
転出数	27,010	25,582	26,396	26,061	25,794	26,173	25,479	24,471	24,347
社会増減数	8,163	8,041	4,282	5,553	2,988	2,790	2,246	4,212	4,319
	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年
転入数	26,615	24,883	23,979	23,370	23,369	23,474	23,192	23,056	22,820
転出数	24,148	24,140	23,432	22,983	23,234	22,835	22,910	22,706	21,945
社会増減数	2,467	743	547	387	135	639	282	350	875
	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年		
転入数	22,271	21,818	22,510	21,946	21,077	20,516	21,434		
転出数	21,979	22,540	22,523	22,427	20,705	20,251	20,673		
社会増減数	292	-722	-13	-481	372	265	761		

出典：西宮市統計書

※表中の数字は住民基本台帳法、外国人登録法（平成24年7月9日廃止）、戸籍法に基づく届出及び記載の数字です。

(3) 人口動態の推移（自然動態推移）

平成元年以降の出生数・死亡数による人口動態の推移を図3及び表3に示しています。

出生数は、社会増がピークとなった平成10年以降は、毎年4,500人前後で推移していましたが、徐々に減少し、令和4年は3,400人程度まで減少しています。一方、死亡数は、阪神淡路大震災が発生した平成7年を除けば増加傾向で推移しています。

平成7年を除き、平成29年までは出生数が死亡数を上回っていましたが、平成30年以降は死亡数が出生数を上回る自然減となり、その傾向は年々大きくなっています。

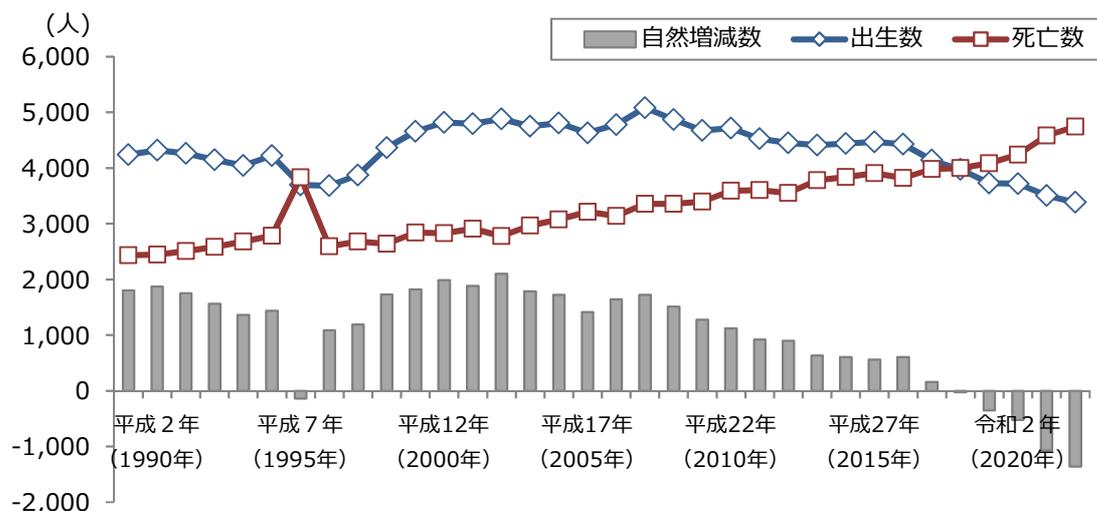


図3 人口動態の推移（自然動態）

表3 人口動態の推移（自然動態）

単位：人

	平成元年	平成2年	平成3年	平成4年	平成5年	平成6年	平成7年	平成8年	平成9年
出生数	4,241	4,320	4,261	4,149	4,046	4,222	3,694	3,683	3,873
死亡数	2,434	2,445	2,509	2,584	2,681	2,782	3,833	2,596	2,679
自然増減数	1,807	1,875	1,752	1,565	1,365	1,440	-139	1,087	1,194

	平成10年	平成11年	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年
出生数	4,368	4,660	4,820	4,797	4,880	4,751	4,806	4,630	4,781
死亡数	2,639	2,839	2,832	2,912	2,780	2,966	3,079	3,215	3,137
自然増減数	1,729	1,821	1,988	1,885	2,100	1,785	1,727	1,415	1,644

	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年
出生数	5,084	4,871	4,673	4,718	4,527	4,452	4,413	4,443	4,471
死亡数	3,359	3,360	3,395	3,594	3,606	3,552	3,780	3,838	3,909
自然増減数	1,725	1,511	1,278	1,124	921	900	633	605	562

	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年
出生数	4,427	4,143	3,976	3,733	3,716	3,507	3,384
死亡数	3,823	3,984	3,999	4,084	4,241	4,582	4,743
自然増減数	604	159	-23	-351	-525	-1,075	-1,359

出典：西宮市統計書

※表中の数字は住民基本台帳法、外国人登録法（平成24年7月9日廃止）、戸籍法に基づく届出及び記載の数字です。

2. 将来の人口推計

令和5年12月に国立社会保障・人口問題研究所（以下「社人研」という。）から「日本の地域別将来推計人口（令和5年推計）」（以下「地域別将来推計人口」という。）が公表されました。この推計は、将来の人口を都道府県別・市区町村別に求めることを目的としたもので、令和2年の国勢調査を基に、令和32年までの5年ごと30年間について、男女・5歳階級別に予測しているものです。

将来人口は、総合計画を始め様々な施策や施設計画の基礎資料として用いられる指標等となるため、地域別将来推計人口の公表を受け、本市においても将来人口を推計しました。

全市の将来人口については、地域別将来推計人口の値を用いることとし、第5次西宮市総合計画 参考資料「地域別アウトライン」において地域分けをしている9区分の将来人口については、地域別将来推計人口の推計手法に準拠し、市独自で予測を行いました。

（1）全市の将来推計人口

本市の将来人口の推計を図4に示しています。令和7年までは緩やかに人口減少が進みますが、それ以降は減少幅が大きくなり、令和32年には441,358人になると予測しています。

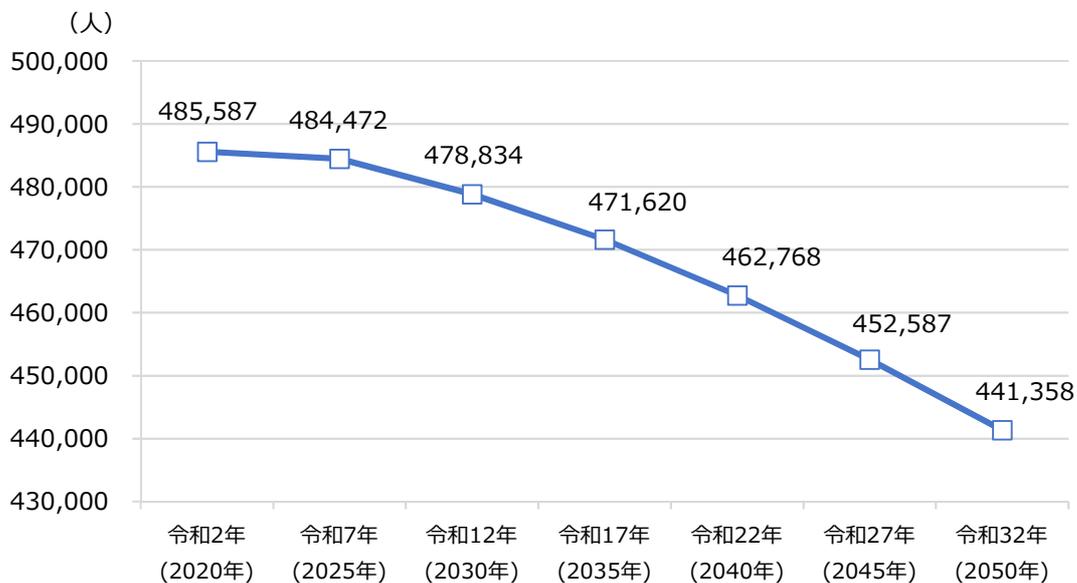


図4 本市の将来人口推計

(2) 地域別の将来推計人口

ア. 推計手法

社人研の推計手法（コーホート要因法）に準拠しました。

コーホートとは、同期間に出生した集団のことをいい、本推計では男女別に5年5歳区分で構成しています。また、コーホート要因法とは、出生・死亡・移動等の人口の変動要因に基づいてコーホートごとに将来人口を推計する手法です。

イ. 推計の基本データ

(a) 基準人口

国勢調査による令和2年10月1日現在、市区町村別、男女・年齢（5歳階級）別人口（外国人を含む）です。

(b) 子ども女性比

特定時期の0～4歳の人口を同時期の20～44歳の女性人口で除した値。

(c) 0-4歳性比

特定時期の0～4歳女性人口100人あたりの0～4歳男性人口。

(d) 生残率

特定時期の各コーホートの人口が、5年後に生き残っている率。

(e) 純移動率

特定時期の各コーホートのその後5年間の転入超過数を各コーホートの人口で除した値。

ウ. 推計算出式

(a) 5歳以上の男女・年齢別人口の推計

$(x+5 \text{ 年の男女・年齢別人口}) = x \text{ 年の男女・年齢別人口} \times (\text{生残率} + \text{純移動率})$

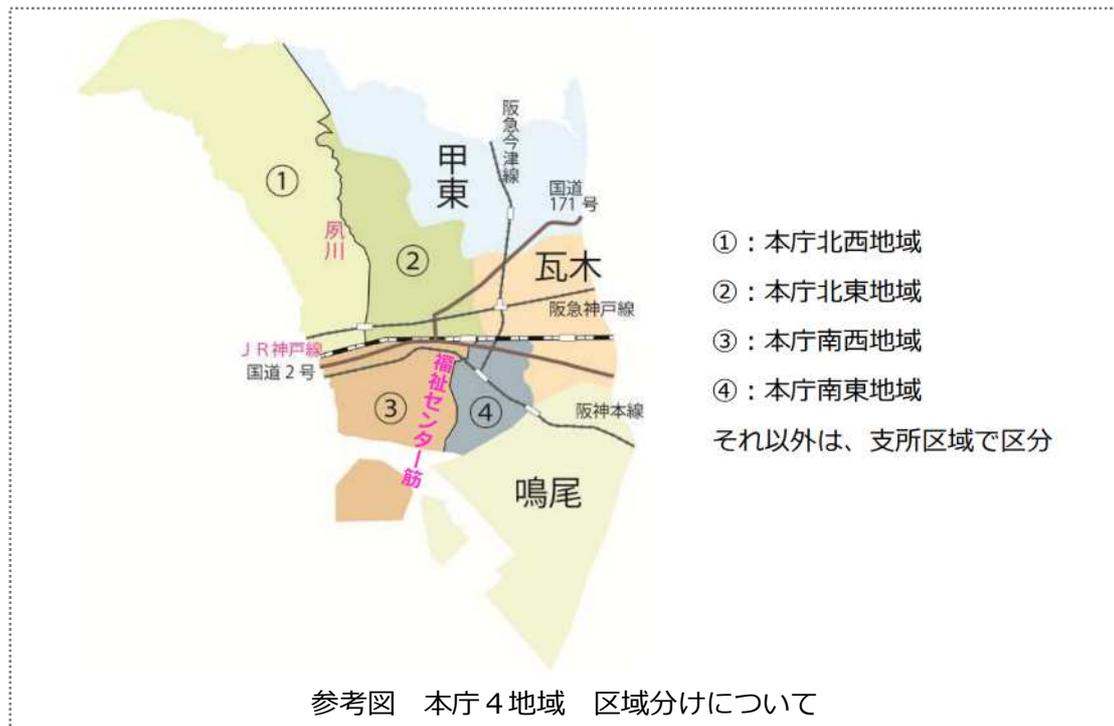
(b) 0-4歳男女別人口の推計

$0-4 \text{ 歳人口} = 20\sim44 \text{ 歳女性人口} \times \text{子ども女性比}$

工. 区域分けについて

本庁地域は、面積・人口規模等を勘案して四つに区分した上で、従来から支所を設置している鳴尾、瓦木、甲東、塩瀬、山口の5地域と合わせて、9地域に区分しています。

本庁地域については、JR 東海道本線で南北に区分した上で、南部については、津門・今津を本庁南東地域、それ以外を本庁南西地域に区分しています。北部については、地形的に分かりやすいものとして、夙川を境界にして、東西に区分しています。



才. 推計結果

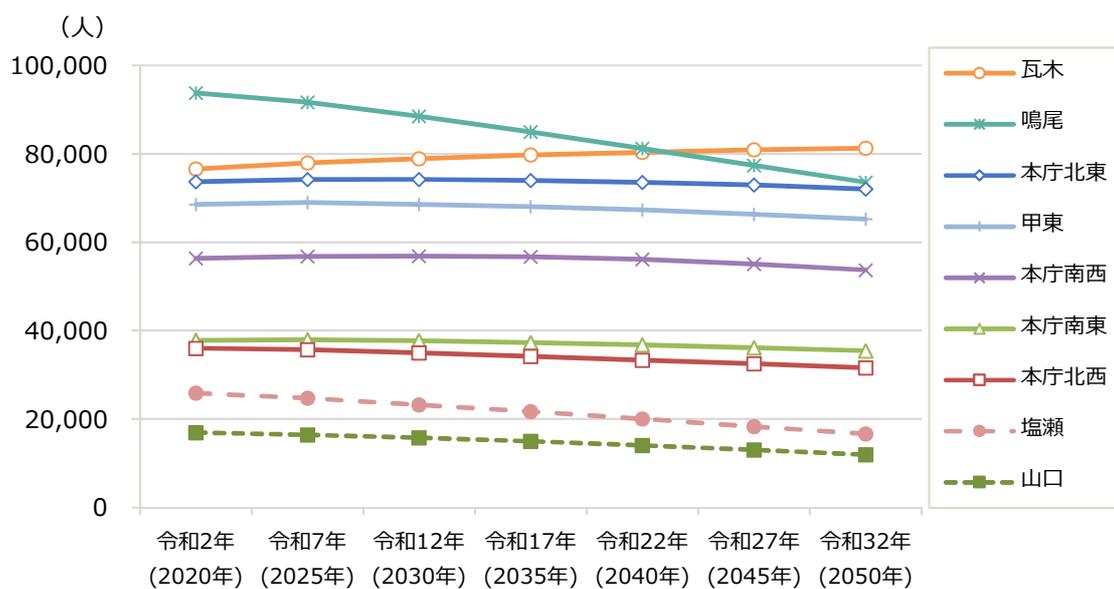


図5 地域別の将来人口推計

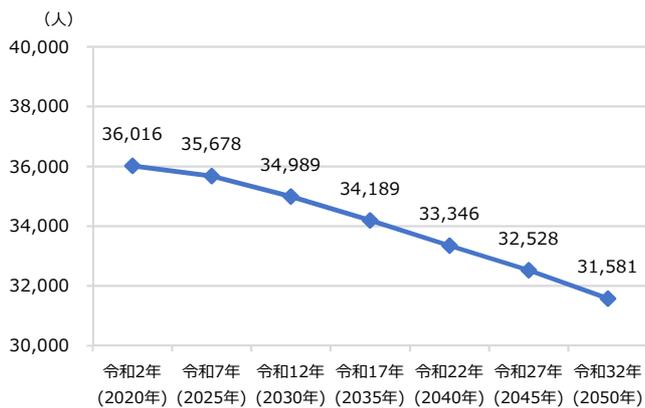


図 6 本庁北西地域の将来人口推計



図 7 本庁北東地域の将来人口推計

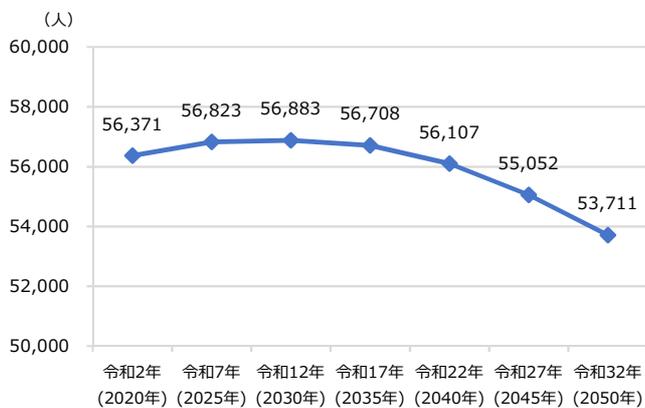


図 8 本庁南西地域の将来人口推計

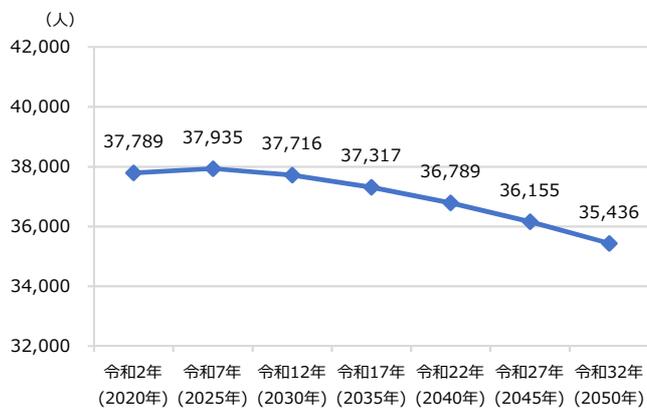


図 9 本庁南東地域の将来人口推計

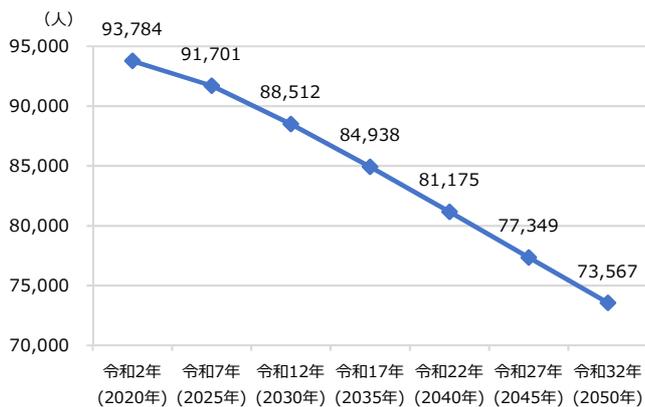


図 10 鳴尾地域の将来人口推計



図 11 瓦木地域の将来人口推計

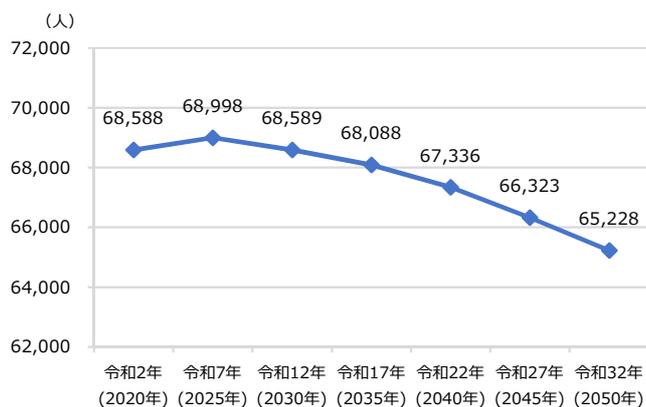


図 12 甲東地域の将来人口推計



図 13 塩瀬地域の将来人口推計

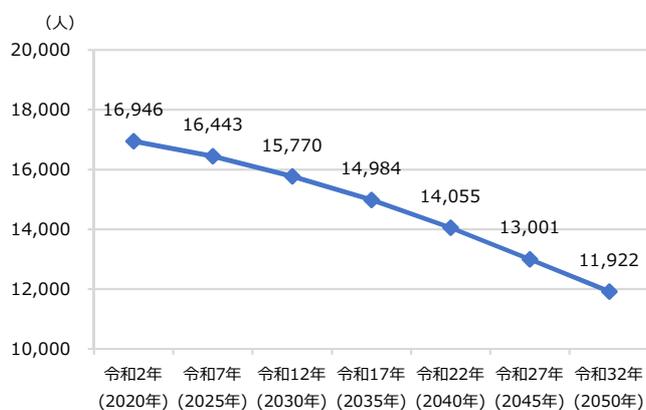


図 14 山口地域の将来人口推計

注) 図 6～図 14 のグラフ縦軸の範囲は、増減の変化が分かりやすくなるよう、グラフごとに設定しています。

3. 推計結果の詳細

(1) 男女別

ア. 全市

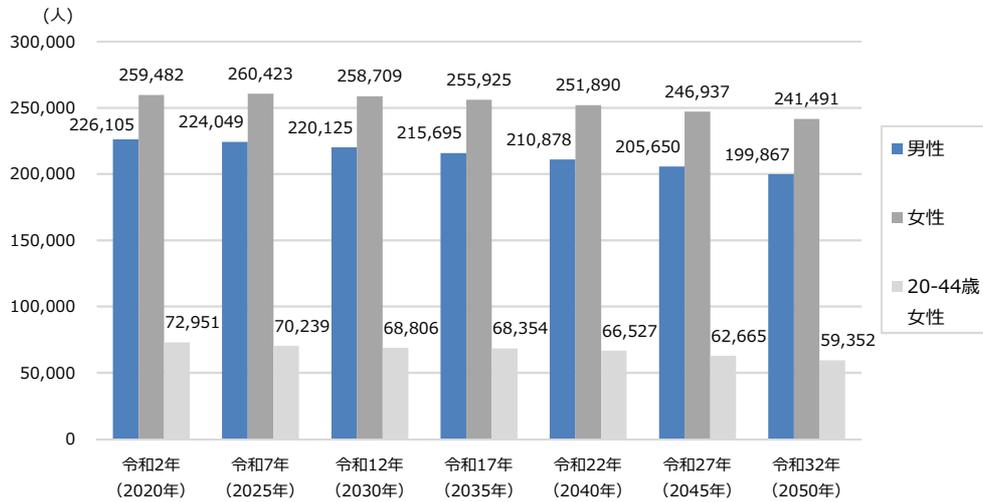


図 15 将来人口推計における男女別構成（全市）

イ. 地域別

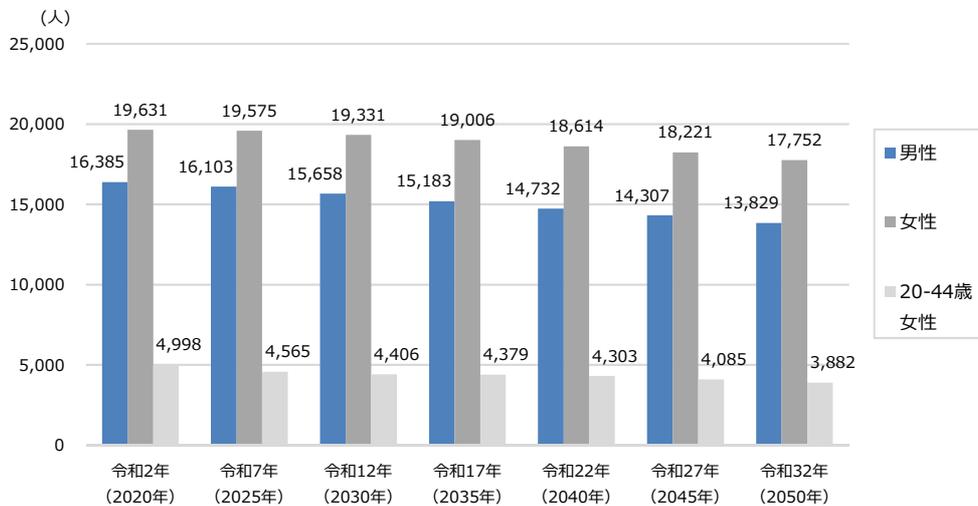


図 16 将来人口推計における男女別構成（本庁北西）

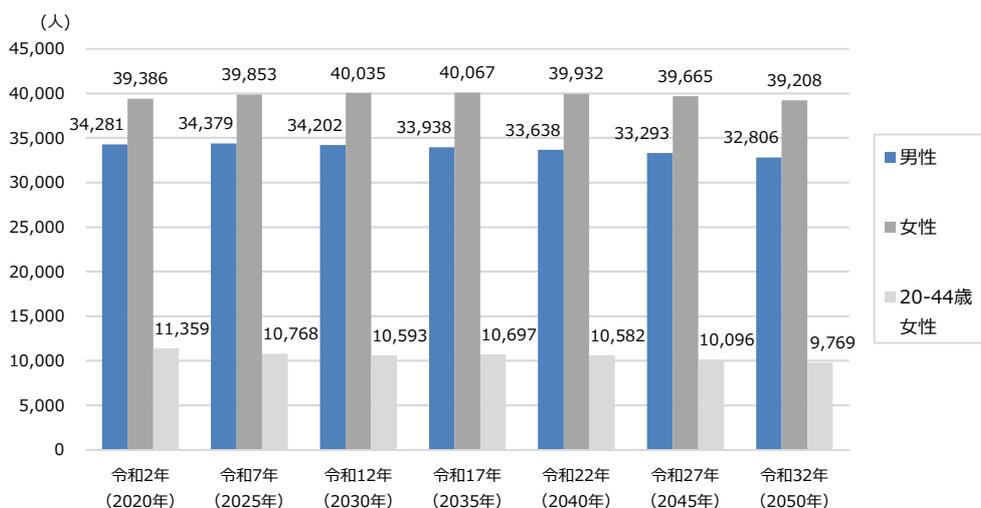


図 17 将来人口推計における男女別構成（本庁北東）

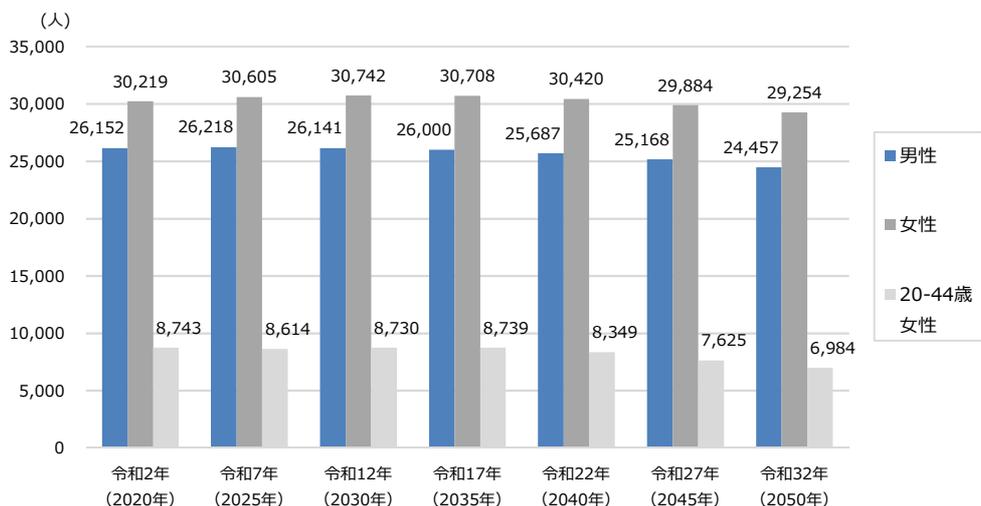


図 18 将来人口推計における男女別構成（本庁南西）

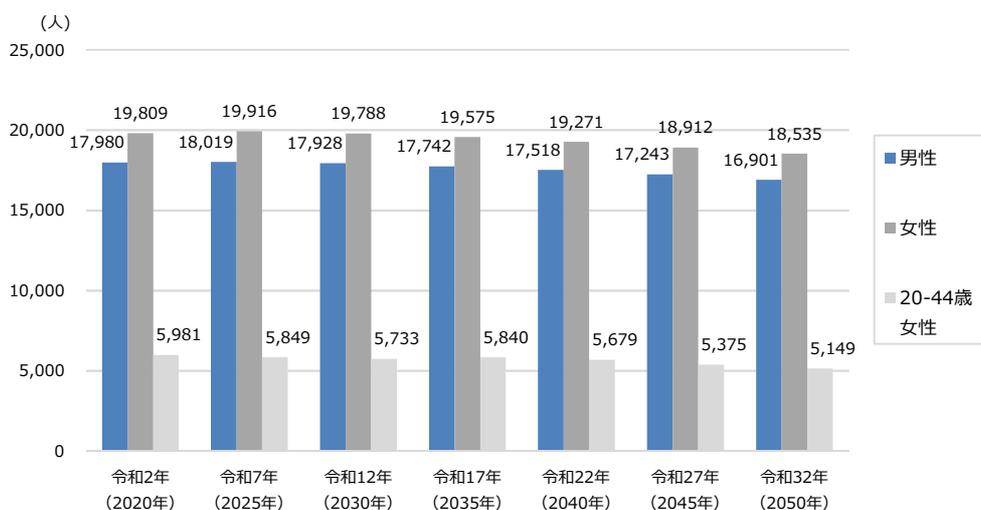


図 19 将来人口推計における男女別構成（本庁南東）

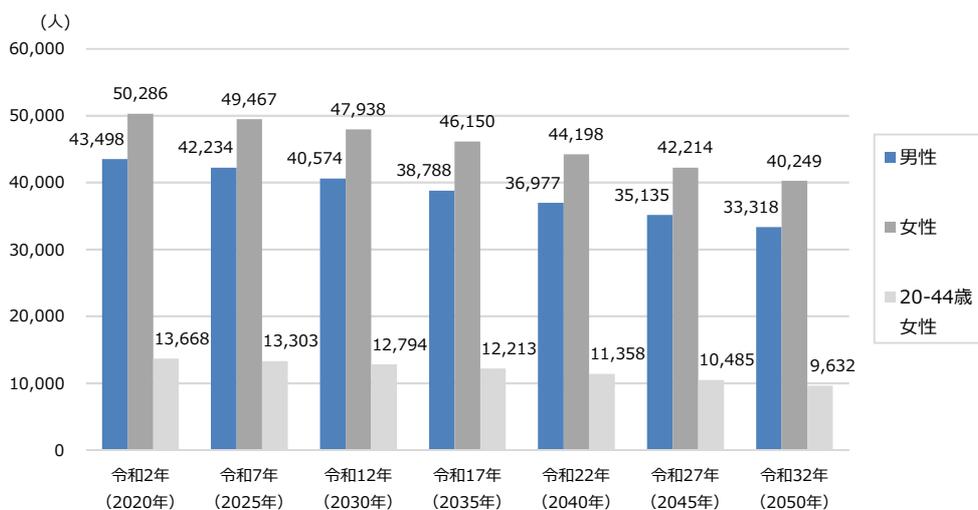


図 20 将来人口推計における男女別構成 (鳴尾)

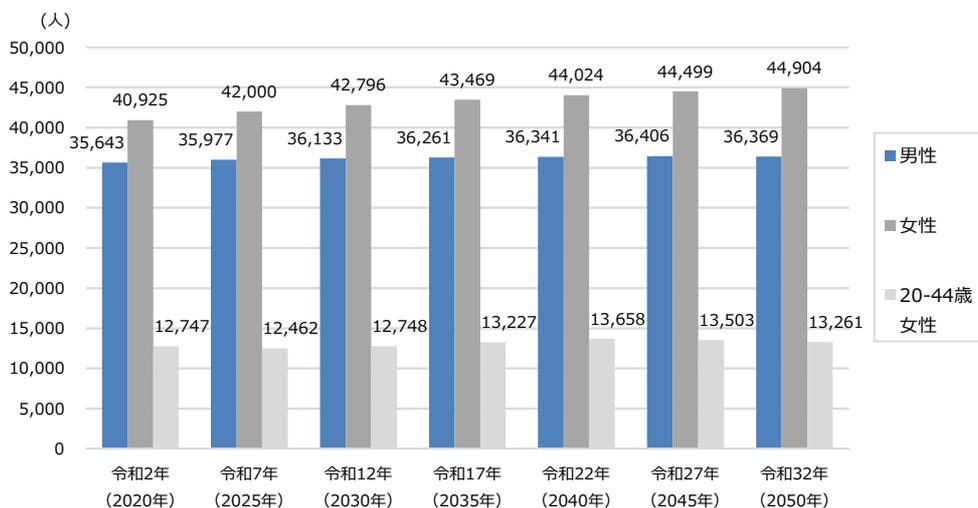


図 21 将来人口推計における男女別構成 (瓦木)

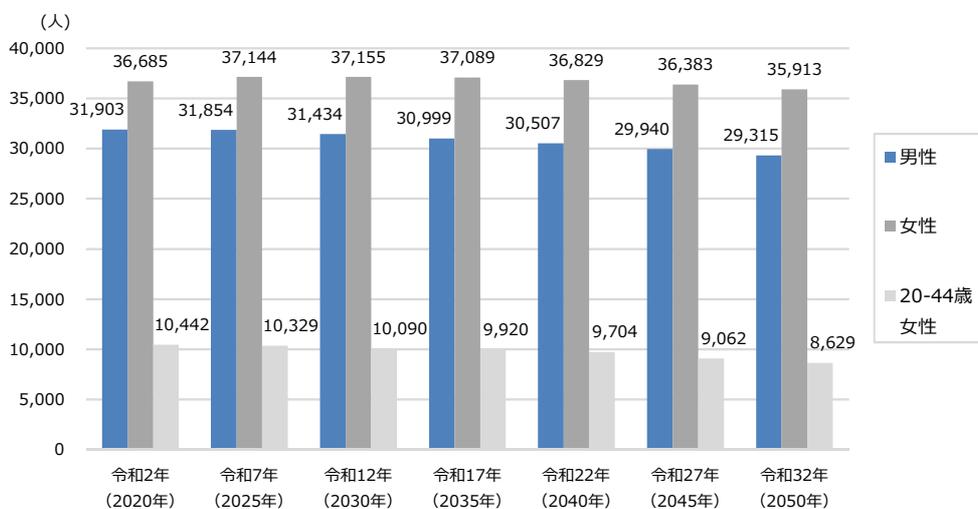


図 22 将来人口推計における男女別構成 (甲東)

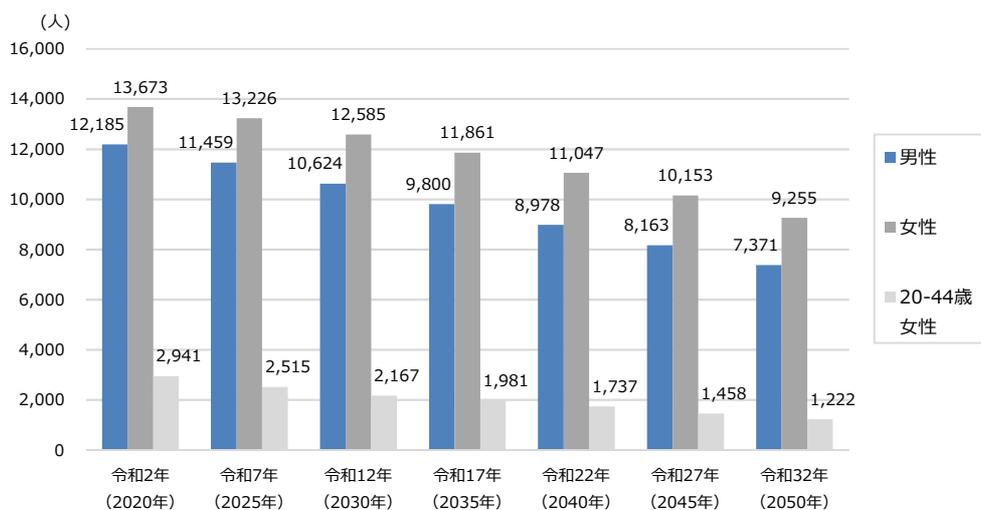


図 23 将来人口推計における男女別構成 (塩瀬)

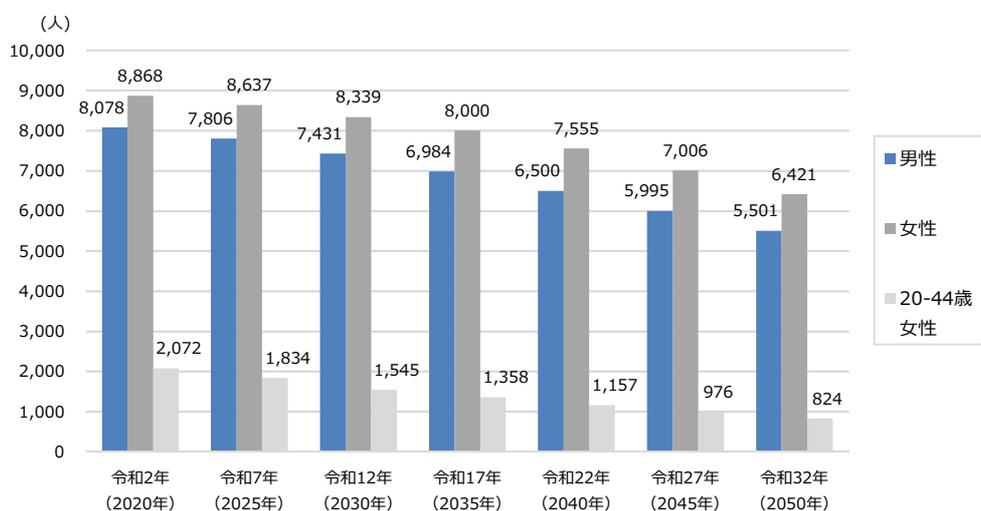


図 24 将来人口推計における男女別構成 (山口)

(2) 年齢階層別

ア. 全市

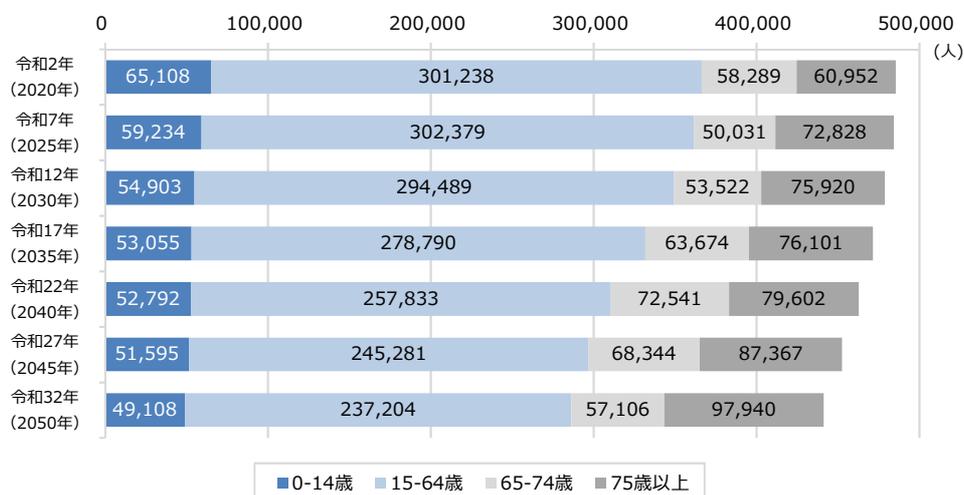


図 25 将来推計人口における年齢別構成 (全市)

イ. 地域別

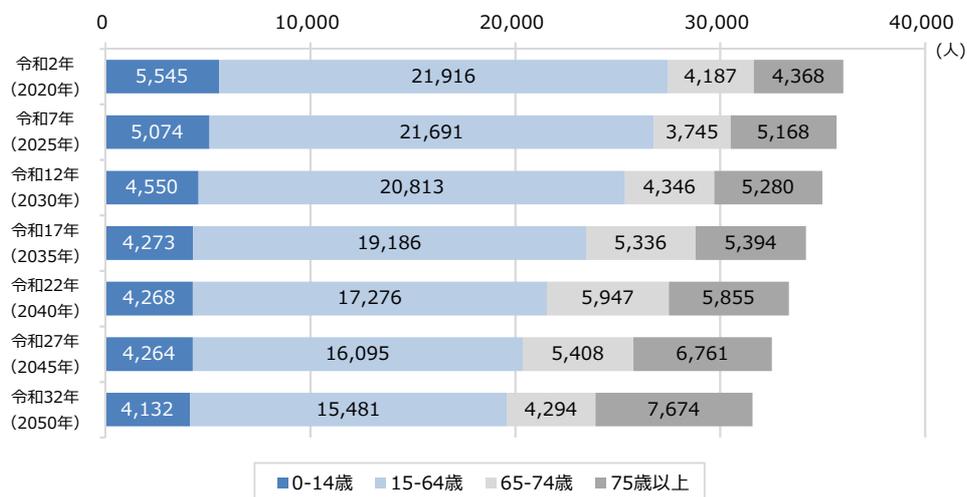


図 26 将来推計人口における年齢別構成 (本庁北西)

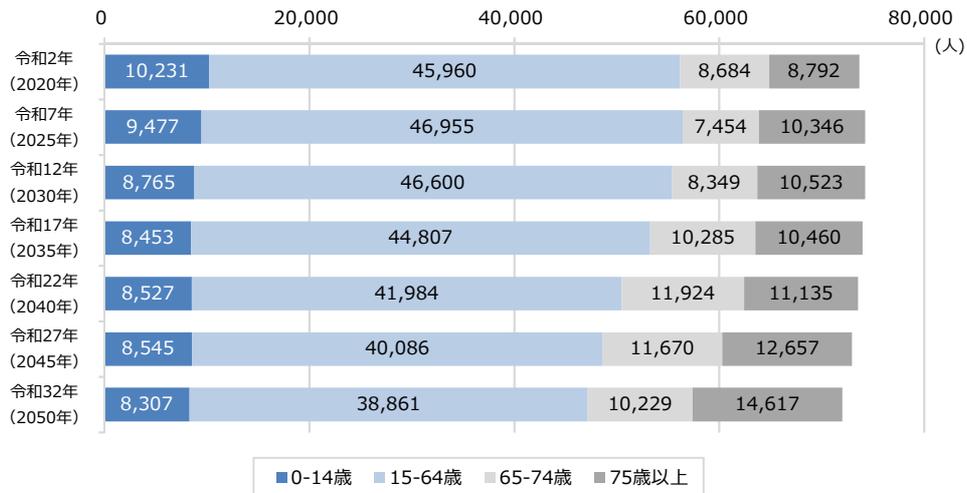


図 27 将来推計人口における年齢別構成（本庁北東）

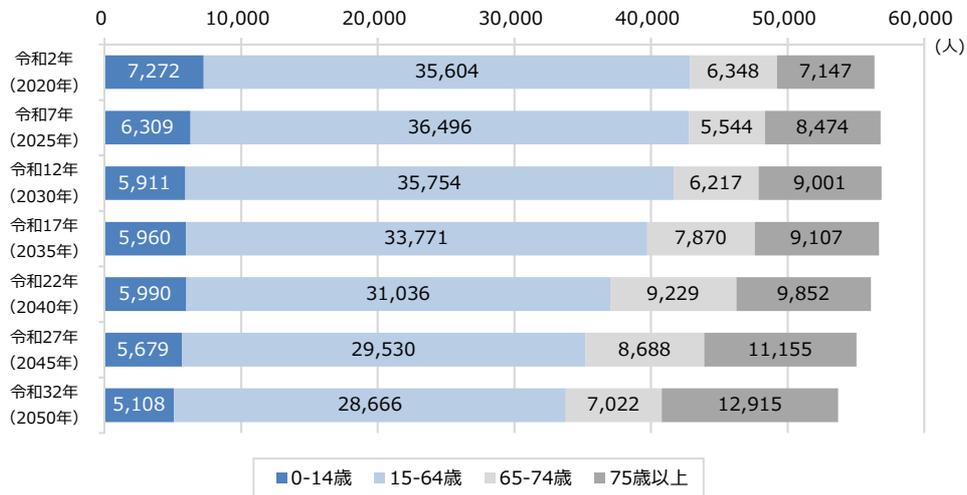


図 28 将来推計人口における年齢別構成（本庁南西）

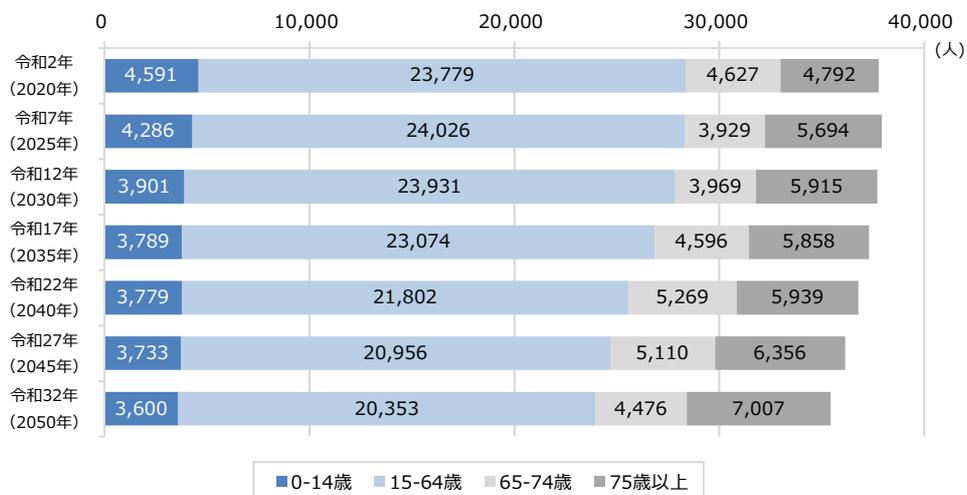


図 29 将来推計人口における年齢別構成（本庁南東）

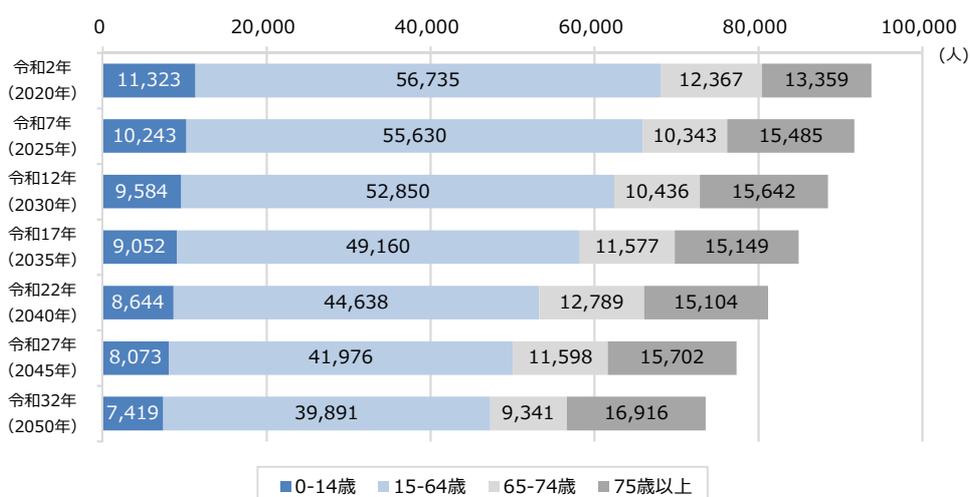


図 30 将来推計人口における年齢別構成 (鳴尾)

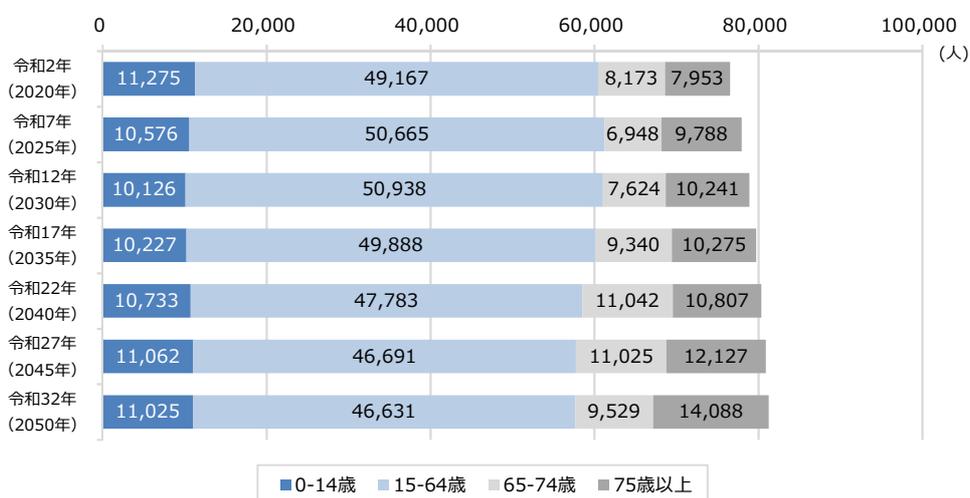


図 31 将来推計人口における年齢別構成 (瓦木)

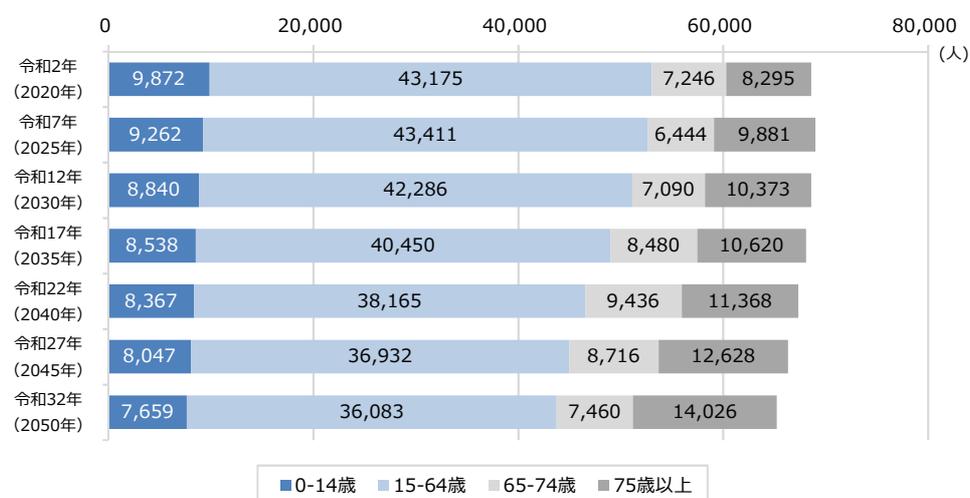


図 32 将来推計人口における年齢別構成 (甲東)

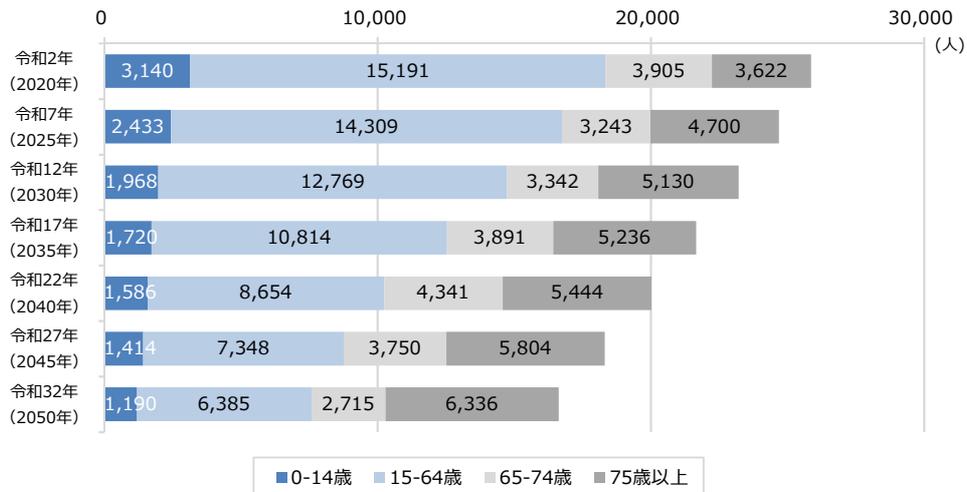


図 33 将来推計人口における年齢別構成 (塩瀬)

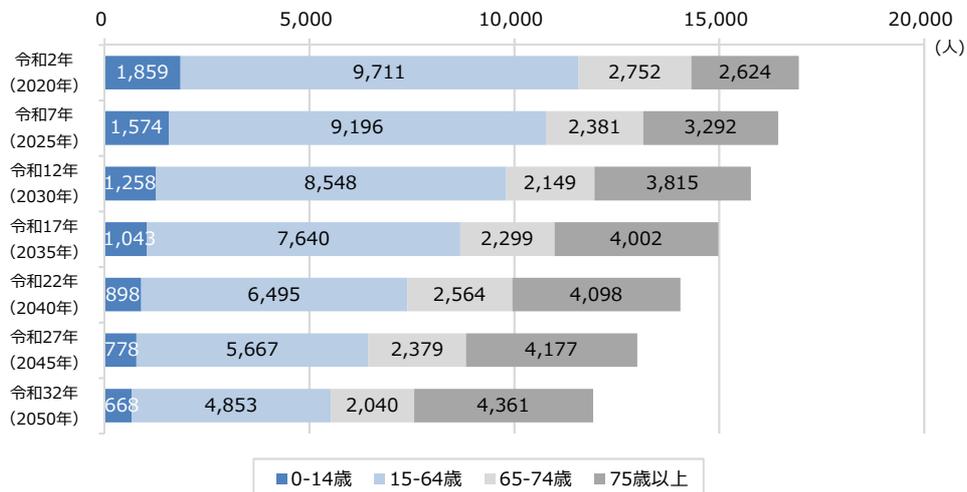


図 34 将来推計人口における年齢別構成 (山口)

4. 分析・考察

(1) 全市

人口は、令和 32 年時点では 441,358 人と現状から減少すると見込んでいます。男女別で見ると、男性全体では微減、女性全体ではおおむね現状と変わらない数値となっていますが、主に子どもを生む年代である 20 歳から 44 歳の女性は 13,500 人程度減少することが予測されています。一方、年齢階層別で見ると、年少人口（0～14 歳）は令和 32 年まで緩やかに減少し、生産年齢人口（15～64 歳）は令和 12 年まで穏やかな減少傾向が続きますが、それ以降は減少幅が大きくなると予測されています。高齢者人口（65 歳以上）は令和 32 年まで一貫して増加しますが、令和 12 年以降の増加幅が大きくなると予測されています。令和 2 年時点での高齢化率（65 歳以上）は 24.4%（国勢調査より。年齢不詳を除く。）ですが、令和 12 年時点では 27.0%、令和 17 年には 29.6%と 4 人に 1 人以上が高齢者（65 歳以上）となることが予測されています。さらに、令和 22 年には、高齢化率が 32.9%と急激に上昇し、おおむね 3 人に 1 人が高齢者になることが予測されています。これは、令和 2 年時点で団塊ジュニア世代（昭和 42 年から昭和 50 年生まれ。45～49 歳及び 50～54 歳男女）等の本市の人口構成で最も多い世代の大半が、令和 22 年時点では 65 歳以上の高齢者世代に移行することによるものです。

(2) 地域別

ア. 本庁北西

人口は、今後、減少する見込みです。年少人口の割合は全市より高く、生産年齢人口の割合は全市より低く推移する見込みです。高齢化率は令和 12 年以降において全市より高く推移する見込みです。

イ. 本庁北東

人口は、令和 12 年以降、減少する見込みです。年少人口と生産年齢人口の割合は全市より高く、高齢化率は全市より低く推移する見込みです。

ウ. 本庁南西

人口は、令和 12 年以降、減少する見込みです。年少人口の割合は全市より低く、生産年齢人口の割合は令和 22 年以降において全市より低く推移する見込みです。高齢化率は令和 17 年以降において全市より高く推移する見込みです。

エ. 本庁南東

人口は、令和 7 年以降、減少する見込みです。年少人口の割合は全市より低く、生産年

齢人口の割合は全市よりおおむね高く推移する見込みです。高齢化率は全市より低く推移する見込みです。

オ. 鳴尾

人口は、今後、減少する見込みです。年少人口の割合は全市より低く、生産年齢人口の割合は令和 22 年まで全市より低く推移する見込みです。高齢化率は全市より高く推移する見込みです。

カ. 瓦木

人口は、地域の人口は、今後、増加する見込みです。年少人口と生産年齢人口の割合は全市より高く、高齢化率は全市より低く推移する見込みです。

キ. 甲東

人口は、令和 7 年以降、減少する見込みです。年少人口と生産年齢人口の割合は全市より高く、高齢化率は全市より低く推移する見込みです。

ク. 塩瀬

人口は、今後、減少する見込みです。年少人口と生産年齢人口の割合は全市より低く、高齢化率は全市より高く推移し、令和 22 年以降において、高齢化率が生産年齢人口の割合を上回る見込みです。

ケ. 山口

人口は、今後、減少する見込みです。年少人口と生産年齢人口の割合は全市より低く、高齢化率は全市より高く推移し、令和 22 年以降において、高齢化率が生産年齢人口の割合を上回る見込みです。